

異文化と接して見えたこと

文教育学部人文科学科 2年

田尻 悠菜

1. 参加の動機・目的

今回の実習への参加の目的は3つあった。まず1つ目は、世界共通語である英語で海外の人とコミュニケーションを取り、英語力を磨きたかったということ。普段、留学生の人と日本語で話すことは多いが、英語で話すことはなかなかない。今回の実習では、韓国人はもちろん、アメリカ人などネイティブの人とも接することができること知り、英語力を磨くには最適だと思った。2つ目の目的は、日本と最も近い国である韓国がどんな国なのか、実際に行き確かめてみたかったということだ。3つ目の目的は、日韓関係の障壁ともなっている、日本の韓国侵略の歴史が、韓国ではどのように保存され、受け止められているのか知りたかったということである。日本では韓国侵略の歴史について、それほど詳しく教えられることがないが、韓国では非常に主観的に詳しく教えられると聞いたため、それを実際に目で確かめてみたかったのだ。

2. 成果

2-1. 多文化交流実習 I

多文化交流実習 I は、参加目的である、英語で海外の人とコミュニケーションを取り、英語力を磨く、という目的を果たすのに最適な授業であったが、この授業では、自分のあまりの英語力の無さに気付かされ、衝撃を受けた。テキストを読む力、ディベートで人の意見を聞く力、話す力、全てが不十分で、最初のころはディベートについていくことすらままならなかった。回を重ねるごとに少しは発言できるようになったが、それでもまだ自分の考えを十分に伝えることができず、最後まで歯がゆさを感じていた。話したいことがあっても英語力が不十分なせいで上手く発言できない、聞きたいと思っても、特にネイティブの英語は理解できない。自分の無力さを身にしみて実感したと同時に、グローバル社会の中での共通語である英語の重要さを感じた。大学入学後、自分の中で英語離れが進んでいたが、このままではいけないということに気づかされた。実習で感じた悔しさを忘れずに、これからはもっと英語を学んでいこうと思う。

また、最後のディベートでは日韓中の関係を阻んでいるものについて議論を交わすこともできたが、この議論を交わした際、日韓中全ての国から、3国の関係を阻んでいるものは歴史である、という意見が出たのが印象的だった。歴史が3国の関係を阻むものとなっている一方で、日本は中国や韓国にどんなひどいことをしたのか、あまり知らないことに問題を感じたからだ。韓国や中国では、記念日や記念館が多数つくられていることから分かる通り、日本の侵略の歴史をしっかりと記憶している。しかし、日本人は中国や韓国を侵略してきたという事実を忘れがちである。これでは日本に対してますます反発が強まり、3国の関係は悪化してしまう。実際、韓国併合についてよく知らない日本人が韓国人と接し、激怒されたという話も聞いたことがある。グローバル化が進み、日韓中の良好な関係がますます重要となっている今、日本人は韓国や中国侵略の歴史についてよく知り、反省する必要があると思う。

2-2. 多文化交流実習 II

多文化交流実習Ⅱでは、韓国語は英語とは異なり、文法、単語ともに日本語にかなり近い言語だと言うことを知り、驚いた。アジアの言語を今まで学ぶことはなかったが、今回韓国語について学び、韓国語を学ぶことの楽しさを知ることができた。

さらに、韓国語には日本語よりも尊敬語を多用することが分かり、そこから年上を敬うという韓国の儒教の文化が伺えた。国民性、国の文化は、言語からも推察することができるのだということが、今回韓国語を学んで分かった。

また、最初の頃は特に言葉が全く分からなかったが、先生が使うジェスチャーで大体の意味が分かり、ジェスチャーの持つ役割の大きさを感じた。

さらに、今回の私のように、その国の文化や言語についてあまり知識がない生徒にとっては、その国の言語を教えるネイティブの教師が、国民の印象や、言語を楽しんでいると感じる程度に影響を与えるように感じ、ネイティブの言語教師の役割の大きさについても感じた。

2-3. ショートビジットで学んだこと

2-3-1. 独立記念館

韓国短期滞在の間、北朝鮮を見ることができる展望台や韓国民俗村など、様々な場所を訪れたが、中でも、韓国の独立記念日であると同時に日本の終戦記念日でもある 8 月 15 日に、韓国人、アメリカ人、日本人数人で独立記念館に行った時のことが非常に印象に残っている。独立記念館では、この実習の目的の 1 つであった、日本の韓国侵略の歴史が韓国でどのように受け止められているのか知りたいという目的を果たすことができた。

まず私が館に入って衝撃を受けたのは、館内には幼い子供が多数いたということである。ここには、日本が韓国人に対して行った弾圧がリアルに描かれているなど、子どもが見るには耐えられないような展示が多数ある。それにもかかわらず、大変多くの子どもが来館し、弾圧の模型を真剣に見ていたのだ。母親が弾圧の展示を指差して、子どもに説明している様子も見受けられた。館内には、タッチパネルや、踏むと光る足跡など、子どもに喜ばれるような仕掛けも多々あり、記念館側も、子どもが来館することを望んでいることが分かった。日本では、幼い子供はおろか、大人であっても戦前日本が韓国に何をしたのかわからない人がいる。私自身、記念館に来るまで知らなかったことが多々あった。さらに衝撃を受けたのは、このように日本人があまり歴史を知らず、歴史を見ようとしないうことに対する非難が書かれたボードがいくつもあったことである。そこには、「責任逃れをしようとしている日本人はひどい」「歴史を忘れた国は発展しない」など、侵略の歴史をあまり知らない日本に対し怒りをあらわにした言葉が書かれていた。こうした言葉は、日本では非常に主観的で感情的だと非難されるかもしれないが、的を射た言葉であると思う。日本人はこうした現実を真摯に受け止め、歴史としっかり向き合い、反省していく必要がある。

もう 1 つ驚いたことがあった。それは、竹島問題が、韓国では日本以上に重要視され、また感情的に解釈されているということである。独立記念館には、竹島問題についても展示されており、その展示の中で日本は非常に非難されていた。竹島問題についてあまり深く考えてこなかった私は、非常に衝撃を受けた。展示には、「日本はまた韓国を侵略しようとしている」「日本は独島の名前を勝手に竹島に変え、侵略を進めている」「独島は明らかに韓国の領土である」といった、日本を批判する言葉が多数書いてあった。竹島の展示の前で立ち止まる人は大勢おり、韓国人の竹島問題への関心の高さが伺えた。竹島問題の関心度

の高さは、駅でも見られた。駅の構内に、竹島の模型があり、横に説明書きがしてあったのだ。韓国では日本よりも竹島問題が深刻に受け止められている事が分かり、日本が竹島を侵略しようとしていると受け止められていることに非常にショックを受けた。竹島問題については、日韓の相互理解、解決がとても難しいということを実感した。

2-3-2.日韓中関係

上で述べたように、独立記念館では反日の言葉が多数見られたが、その一方で、現在の韓国人は思ったよりも反日ではなく、むしろ親日の方へ進んで行っているという印象を受けた。独立記念日に独立記念館へ行ったら、日本語を喋った瞬間に罵倒されるのではないかと恐れていたが、そんなことはなかったし、独立記念館行きのバスの中で気さくに日本人の私たちに話しかけてくれた韓国人の女性や、反日の場所であり、距離も遠い独立記念館まで連れて行ってくれた韓国人の友達を見ても、韓国は親日に動いてくれつつあるように感じた。中国人の友達は、歴史は悲惨だが、それが今の日本人を嫌う理由にはならない、と言っていた。実際に韓国人や中国人と接し、今の韓国人、中国人は、自分が思っているよりも前向きに、日本と接しようとしてくれているのではないかと感じた。悲惨な歴史があるにも関わらず、日本人に親切に接してくれている韓国人、中国人の姿を見て、日本人は二度と中国や韓国に対し傲慢な態度を取らず、三国が良い関係を結べるように努力していかなければならないと改めて感じた。

2-3-3.海外の学生との交流

大学の授業で、海外の人と接する際には、偏見を持たずに接することが大事だと以前学んだことがあったが、実際に海外の学生との交流し、改めて偏見はいけないと感じた。欧米の人は気が強いというイメージが強く、最初は近寄りがたかったが、実際に接してみると、気さくで、とても親切に接してくれた。中国人にも同様のイメージを持っていたが、彼らも同様に親切に接してくれた。○○人だから近寄りがたい、というのは偏見に過ぎず、そのような偏見は交流の障害になるということを実感した。

2-3-4.異文化と接して分かった日本の特色

日本人はよく生真面目、勤勉、曖昧と言われるが、異文化と接したことで、そのことがより明確に分かった。例えば、韓国では、お店の人がテレビを見ながら食事をするなど、ある程度気を抜いている場面がよく見られたが、働いている間に気を抜く姿は日本ではなかなか見られない光景である。このような比較から、日本人は勤勉であるということを感じることができた。ディベートでは、困って笑ったり、曖昧な答えを返してしまったことがあったが、こうした反応を外国の人（とくに欧米人）がする姿は見られず、これは日本人に独特の反応なのだというところを実感した。また、この反応は相手に意思が伝わりづらいため、日本人の持つ欠点だと感じた。

3. まとめ

今回の実習では、多くのことを感じ、学んできたが、それを受けて、今後の課題が3つできた。

まず、自分の英語力をもっと磨きあげることである。今回韓国に行き、さらに多くの国に行き、様々な文化や、その国の人に触れたいという気持ちが高まったが、そのためには、グローバル社会の公用語、英

語を身につけなければいけないと身にしみて感じたからである。

もう1つは、海外の人と接する際に、偏見を持たずに接するということである。

最後に、韓国や中国の侵略の歴史について知り、反省し、その上で良い関係を構築していくということである。

韓国で学んだことを活かし、グローバルな目を持ち、様々な国の人と交流していけるような人間になれるよう、努力していきたいと思う。